

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Reading 1 文献の読み方 大学院入試レベルの英文を読む 1</p> <p>第2回 Reading 2 文献の読み方 大学院入試レベルの英文を読む 2</p> <p>第3回 Reading 3 文献の読み方 大学院入試レベルの英文を読む 3</p> <p>第4回 Reading 4 文献の読み方 大学院入試レベルの英文を読む 4</p> <p>第5回 Reading 5 文献の読み方 留学試験に挑戦 1 IELTSのreading問題</p> <p>第6回 Reading 6 文献の読み方 留学試験に挑戦 2 IELTSのreading問題</p> <p>第7回 Reading 7 文献の読み方 留学試験に挑戦 3 IELTSのreading問題</p> <p>第8回 Reading 8 文献の読み方 留学試験に挑戦 4 TOEFLのreading問題</p> <p>第9回 Reading 9 文献の読み方 留学試験に挑戦 5 TOEFLのreading問題</p> <p>第10回 Reading 10 文献の読み方 留学試験に挑戦 6 TOEFLのreading問題</p> <p>第11回 Reading 11 文献の読み方 留学試験に挑戦 7 TOEFLのreading問題</p> <p>第12回 Reading 12 文献の読み方 留学試験に挑戦 8 TOEICのreading問題</p> <p>第13回 Reading 13 文献の読み方 留学試験に挑戦 9 TOEICのreading問題</p> <p>第14回 Reading 14 文献の読み方 留学試験に挑戦 10 TOEICのreading問題</p> <p>第15回 Reading 15 文献の読み方 留学試験に挑戦 11 TOEICのreading問題</p>
科目の目的	英語I、II、英語表現、ステップアップ英語I、II、英文講読Iで養成した専門分野の英語に取り組める力の発展。専門用語語彙力の発展。留学試験に対応できるリーディング力の養成。【技能・表現】
到達目標	テキストの英語構文を正しく理解し、内容を正しく理解することができる。 専門分野の英単語、英語表現を覚える。
関連科目	英語I、II 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語I、II 英文講読I 広義には検査技術に関する科目全般に関連する。
成績評価方法・基準	毎回の授業での発表 (100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	わからない単語は調べ、本文を読み、内容を把握しておく。どこがわからないのかを明確にしておくこと。約45分間。
教科書・参考書	プリント。
オフィス・アワー	講義の前後、昼休み、4号館8階研究室26
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	高校までの基本英文法は理解しておいてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
根生とき子			

授業形態	講義11回 演習4回
授業計画	<p>第1・2回 安全管理に関する諸制度と安全対策 安全管理に関する諸制度 臨床検査技師が守るべき法律や規範について講義と演習をする。</p> <p>第3・4回 患者の権利擁護及び個人情報の保護 患者の権利 守秘義務 インフォームドコンセント等を学ぶ。組織として事故対策に取り組む必要性を理解する。</p> <p>第5・6回 ヒューマンエラーについて ヒューマンエラーについて理解し、事故発生を防止するために何ができるかを討議する。ハインリッヒの法則を理解し、インシデント・アクシデントレポートの活用について講義と演習をする。</p> <p>第7・8回 安全を守るための組織づくり（1） 社会や職場、自分自身の環境を見つめ安全な環境について考える。ゲストスピーカーによる講義を通し、安全について考える。</p> <p>第9・10回 安全を守るための環境づくり（2） 事例分析の方法を紹介する。SHELモデル、なぜなぜ分析、時系列分析手法等。事故の当事者や被害者及びその家族の気持ちを理解する。ゲストスピーカーによる講義を通し、安全のための行動指針について学ぶ。</p> <p>第11・12回 危険予知トレーニング 危険予知トレーニングの説明と演習</p> <p>第13・14回 安全な医療提供のためにできること 安全な医療提供のための基準や手順、サービスの質管理について講義と演習をする。</p> <p>第15回 安全管理の実際 ゲストスピーカーとして安全管理者（経験者）を招き、安全管理の現状を理解し、医療人としての態度を学ぶ。</p>
科目の目的	医療を取り巻く環境の変化に伴い医療提供者として安全で良質なサービスの提供を追求しなければならない。医療における安全管理は、患者を守るだけでなくサービスを提供する職員の安全を守ることでもある。臨床検査技師として何をなすべきかを考え、エラーを最大限回避することができるようなシステムを構築することが重要である。安全な職場環境を作るための知識や態度を身につけることを目的とする。ディプロマ・ポリシーは「思考・判断」である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「人は誰でも間違える」ことを理解する</li> <li>2. 医療だけでなく生活環境に潜む「危険」を予測した、回避行動を理解する</li> <li>3. ニアミスを分析し、予防行動の必要性を理解する</li> <li>4. 医療事故被害者の思いを想像し、医療人としての態度を理解する</li> </ol>
関連科目	医学概論 チーム医療論 法学
成績評価方法・基準	課題提出50%（講義の目的に即した理解がされたかを評価する。次回の講義で課題を学生にフィードバックする） レポート評価50%（医療者として良質なサービスを提供するための基礎知識や行動規範に対する理解を問い、安全管理全般の目的との整合性を評価する）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	2時限続けた講義であり、当日の講義に備えて参考図書や配布資料を1時間予習し、授業後は復習1時間行うこと
教科書・参考書	教科書は特に使用しない 参考書 諏訪部章、高木康、松本哲哉編：最新臨床検査学講座 医療安全管理学. 医歯薬出版株式会社 松下由美子、杉山良子、小林美雪編：ナースングラフィカ看護統合と実践②：株式会社メディカ出版
オフィス・アワー	授業日の昼休み（12：15～13：00）
国家試験出題基準	【臨床検査技師】I章 臨床検査総論 IV-F-abcd、G、H-abcdefg
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	4単位	必修
担当教員			
藤田 清貴			
他12名			

授業形態	講義
授業計画	第1・2回 インTRODクシヨN（授業の進め方），免疫検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（1）
	第3・4回 血液検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（1）
	第5・6回 免疫検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（2）
	第7・8回 血液検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（2）
	第9・10回 臨床化学検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（1）
	第11・12回 生理機能検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（1）
	第13・14回 臨床化学検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（2）
	第15・16回 生理機能検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（2）
	第17・18回 臨床検査総論学における最新技術および検査技術の重要ポイント（1）
	第19・20回 微生物検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（1）
	第21・22回 臨床検査総論学における最新技術および検査技術の重要ポイント（2）
	第23・24回 微生物検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（2）
	第25・26回 ウイルス検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（1）
	第27・28回 病理・細胞検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（1）
	第29・30回 ウイルス検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（2）
	第31・32回 病理・細胞検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（2）
	第33・34回 生化学における重要ポイント（1）
	第35・36回 輸血検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（1）
	第37・38回 生化学における重要ポイント（2）
	第39・40回 輸血検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント（2）
	第41・42回 細胞診断学における最新技術および検査技術の重要ポイント
	第43・44回 解剖学における重要ポイント
	第45・46回 遺伝子検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント
	第47・48回 医動物学における検査技術の重要ポイント
	第49・50回 公衆衛生学における重要ポイント

	<p>第51・52回 医用工学における最新技術および検査技術の重要ポイント</p> <p>第53・54回 生理学における検査技術の重要ポイント</p> <p>第55・56回 臨床検査医学総論（病理学）における重要ポイント（1）</p> <p>第57・58回 検査機器総論における最新技術の重要ポイント</p> <p>第59・60回 臨床検査医学総論（病理学）における重要ポイント（2）</p>
科目の目的	臨床検査学総合演習Ⅰで学んだ臨床病態解析検査学，生体機能検査学，検査総合管理学，病因・生体防御検査学，生物化学分析検査学各領域の専門科目群について科目相互の横断的理解を十分にするため，さらに3年次後期から4年次前期まで履修した専門科目群について科目相互のつながり，および基本的かつ先進的な内容を含む重要事項を整理・修得する。【技能・表現】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 免疫検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> <li>2. 臨床化学検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> <li>3. 血液検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> <li>4. 遺伝子検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> <li>5. 微生物検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> <li>6. 生理機能検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> <li>7. 機器分析化学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> <li>8. 医動物学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> <li>9. 臨床検査総論学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> <li>10. 輸血検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> <li>11. 病理・細胞検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。</li> </ol>
関連科目	臨床検査学総合演習Ⅰ，免疫検査学，感染と免疫，臨床化学検査学，血液検査学，遺伝子検査学，微生物検査学，生理機能検査学，機器分析化学，医動物学，臨床検査学総論，輸血検査学，病理細胞検査学
成績評価方法・基準	定期試験60%，模擬試験40%により成績を評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。また，授業回数数の3分の1以上の欠席がある場合には試験成績は無効とみなす。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1～2時間予習・復習を行い理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：日本臨床検査学教育協議会編：臨床検査技師国家試験問題集2017年版（医歯薬出版） 参考書は各授業科目で使用する。その他，必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	授業中は携帯電話の電源を切ること。

講義科目名称：臨地実習

授業コード：1M098

英文科目名称：Practicums

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
担当教員			
小河原はつ江			

授業形態	医療機関における臨地実習
授業計画	<p>第1週 一般検査</p> <p>第2週 血液検査</p> <p>第3週 臨床化学検査</p> <p>第4週 免疫血清検査</p> <p>第5週 臨床微生物検査 遺伝子検査</p> <p>第6週 生理機能検査</p> <p>第7週 輸血検査</p> <p>第8週 病理細胞検査</p>
科目の目的	講義・実習で学んだ知識・技術を基に、臨床検査を実践するための基礎的能力を養い、臨床検査技師としての責務、倫理観を培うことを目的とする。 ディプロマポリシーにおける【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】を総合的に習得する。
到達目標	臨床検査の現場を実際に経験し、臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を経験し、検体採取から結果報告までの一連の業務の流れを理解する。また、臨床に提供する臨床検査情報の意義、精度管理の必要性、さらには検査研究の重要性を認識するために、疾患に対して興味を持ち、提供する検査情報から病態解析へのアプローチを身につけ、医学・医療の専門職として医療チームの一員として、医療の中における臨床検査および臨床検査技師の役割と責任を知る。
関連科目	検査技術学科全必修科目
成績評価方法・基準	施設実習責任者による実習態度、出席状況などの総合評価50%および検査技術学科における実習評価試験（筆記試験）50%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1～2時間（実習前日の予習とその日の実習の整理・復習のため） 実習ノートを配布するので、実習したことを翌日までにまとめ、実習施設の指導者に提出すること。
教科書・参考書	特になし 実習前到達目標および実習後到達目標を配布するので、それを参考に実習に臨むこと。
オフィス・アワー	随時受け付ける。相談・質問がある場合は小河原はつ江（TEL 027-388-0381, E-mail: ogawara@paz.ac.jp）または各専門科目担当者へ事前連絡してから訪問すること。
国家試験出題基準	【臨床検査技師】 I-6-A-a～d, I-6-B-a, b, I-C-a～d 7-D-b, c, d, e III-3-A～E, 4-A, 7-A～F, 9-A～C, 10-A～C, 12-A, B, 13-A, 14-A, B 17-A～C, 18-A～D IV-2-J, K, 3-A, B, 4-C, 5-C, 6-C, 7-C, 8-B, 9-C V-1-A～H, 2-A～Q, 4-A～F VI-1-A～H, 2-A～Q, 4-A～F, 5-A-a～j, D-b 6-D-e VII-3-A, B, 4-A～F, 6-A, B 7-A～C <病因・生体防御検査学> 1-A～R, 2-A～E, 3-A, B 5-A～K, 6-A, VIII-2-A, B, 3-B, F, G, H, I, 5-A～D, 7-A～D, 8-A～E, 9-B, 10-A
履修条件・履修上の注意	授業計画の展開で示した内容は実習する病院によって変わることがある。臨地実習は原則として再実習はないので、体調管理に気を付ける。欠席・遅刻・早退があった場合は必ず病院と大学に届け出ること。

講義科目名称：卒業研究

授業コード：1M099

英文科目名称：Graduation Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	8単位	必修
担当教員			
藤田 清貴			

授業形態	演習
授業計画	<p>研究計画 指導教員と9月中に研究計画を立てること。</p> <p>研究期間 10月から12月までの3ヶ月</p> <p>研究分野-1 指導教員：藤田清貴 免疫検査学，電気泳動病態解析学</p> <p>研究分野-2 指導教員：小河原はつ江 血液検査学</p> <p>研究分野-3 指導教員：亀子光明 臨床化学検査学</p> <p>研究分野-4 指導教員：荒木康久 生殖補助医療技術学</p> <p>研究分野-5 指導教員：木村博一 微生物検査学，ウイルス検査学</p> <p>研究分野-6 指導教員：古田島伸雄 生理機能検査学，画像解析検査学</p> <p>研究分野-7 指導教員：長田誠 遺伝子検査学</p> <p>研究分野-8 指導教員：高橋克典 臨床検査学，組織培養</p> <p>研究分野-9 指導教員：白土佳子 血液細胞学，微生物学</p> <p>研究分野-10 指導教員：木村鮎子 電気泳動病態解析学</p> <p>研究分野-11 指導教員：岡山香里 病理・細胞検査学</p> <p>研究発表会 1月中に実施予定。</p> <p>卒業論文 1月下旬に提出予定。</p>
科目の目的	<p>教員の指導の下で卒業研究のテーマを設定し、研究目的や方法などを決め、実際に実験または調査を行い、得られた結果を考察する。これらの過程を通して、創造的な研究を行う能力を養成する。研究指導は研究グループごとに分かれて行い、定期的に研究の進捗状況の報告と、その後の研究計画などをディスカッションして研究を推進していく。詳細な研究記録をもとに、その成果をまとめ、卒業研究発表会にてグループ単位で発表を行う。【知識・理解】，【思考・判断】，【技能・表現】，【関心・意欲】</p>
到達目標	<p>卒業研究では、学生がそれぞれの指導教員の下で研究課題を選び、それまでに習得した専門知識および技術を生かし、卒業研究論文を完成する。論文作成の過程において、学生が専門知識を一層深めるとともに自ら実験・考察を行い、研究課題を解決する能力を身につけることを目標とする。</p>
関連科目	専門科目のすべてと関連する。
成績評価方法・基準	研究に取り組む姿勢、活動状況、論文の内容、プレゼンテーションの内容などで総合的に評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究テーマについて積極的に情報収集を行うとともに、定期的に研究の進捗状況の報告と討論を1～2時間行うこと。
教科書・参考書	教科書は特に使用しない。
オフィス・アワー	個別の相談は各教員が随時対応する。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	自主的かつ責任を持った実験・研究を行うこと。